

創世記33-34章 「霊的高嶺の後に」

1A エサウとの再会 33

1B エサウの抱擁 1-11

1C ひれ伏すヤコブ 1-4

2C 祝いの品 5-11

2B 別れるヤコブ 12-19

1C 解かない警戒 12-17

2C 油断の定住 18-19

2A シェケムでの悲劇 34

1B カナンの慣わし 1-12

1C 辱めによる婚姻 1-7

2C 雑婚による統合 8-12

2B シメオンとレビの計略 13-31

1C 割礼の条件 13-17

2C 隠された悪意 18-24

3C 虐殺と略奪 25-31

本文

創世記 33 章を開いてください。私たちは、前回、ヤコブがヤボクの渡りで、神の御使いと格闘して、もののつがい被打たれて、びっこを引いているところまでを見ました。エサウの怒りから逃げるために、あらゆる手段を尽くしていますが、もうそれでは逃げられないことを、ヤコブ自身がびっこで歩いている時点で、知りました。そこで、33 章であります。

1A エサウとの再会 33

1B エサウの抱擁 1-11

1C ひれ伏すヤコブ 1-4

^{1a} ヤコブが目を見て見ると、見よ、エサウがやって来た。四百人の者が一緒であった。

ヤコブは、びっこを引いていますから、顔が下向きになっていたことでしょう。そこで、目を上げたら、なんと、エサウがやってきています。もう、自分の目の前に現れています。そして、聞いていたとおり、四百人の者たちも一緒です。

^{1b} そこで、ヤコブは子どもたちを、レアとラケルと二人の女奴隷の群れに分け、² 女奴隷たちとその子どもたちを先頭に、レアとその子どもたちをその後に、ラケルとヨセフを最後に置いた。³ ヤコブ

は自ら彼らの先に立って進んだ。彼は兄に近づくまで、七回地にひれ伏した。

ヤコブは、ここにおいても、予防的対策を取っています。自分にとって大切な人たちを後に置いています。初めは、女奴隷ジルパとビルハ、そして彼女たちから生まれた子どもたちです。それから、レアとその子どもたちです。最後に、ラケルとヨセフです。しかし、ヤコブは自らが先に立って進んでいます。家のかしらとして前に出ている。

それから、七回、ひれ伏しています。彼は、完全にしもべの姿を取って、エサウの前に出ています。兄が弟に仕えるというのが神からのことばですが、ヤコブはここでエサウに対して、自分がしもべであるという姿勢を取っています。ヤコブが、自分の家族を守るためという動機が働いているからだと思えます。しかし、次に大きなことが起こります。

⁴ エサウは迎えに走って来て、彼を抱きしめ、首に抱きついて口づけし、二人は泣いた。

ヤコブは、ここで経験しました。後で、彼は、神の御顔を見るようですとエサウに言いますが、まさしくそうです。自分が夜の間に、神の御使いと格闘して、そこをベヌエルと名づけました。神の御顔という意味です。この方が、確かにエサウにおられたのです。殺すどころか、二十年ぶりの再会を喜び、彼の方から走って迎えに来て、抱きしめて、首に抱きついて口づけしているのです。

パウロは、ロマ 9 章でヤコブのことを取り上げ、人の行いではなく、神の選びの確かさについて述べました。そして、「9:16 ですから、これは人の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。」と言っています。ヤコブの願いや努力ではなく、事は、神の憐れみなのです。私たちは、陶器師の手の中にある陶器のように、主の御手の中に置かれていて、主が事を運んでくださっています。

箴言でも、こうあります。「16:9 人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、【主】が人の歩みを確かにされる。」「19:21 人の心には多くの思いがある。しかし、【主】の計画こそが実現する。」いろいろな思いが心にあっても、主のご計画が実現します。そして、主が人の歩みを確かにされます。

2C 祝いの品 5-11

⁵ エサウは目を上げ、女たちや子どもたちを見て、「この人たちは、あなたの何なのか」と尋ねた。ヤコブは、「神があなた様のしもべに恵んでくださった子どもたちです」と答えた。⁶ すると、女奴隷とその子どもたちが進み出て、ひれ伏した。⁷ 次に、レアも、その子どもたちと進み出て、ひれ伏した。最後に、ヨセフとラケルが進み出て、ひれ伏した。

ヤコブは、真心から、神が恵んでくださった子どもたちであると言っていたことでしょう。これほど

の子どもたちが、彼から生まれていました。そして、彼らにみな、エサウの前でひれ伏せさせています。あくまでも、自分たちはあなたのしもべです、という姿勢です。

次回学ぶ 36 章では、確かにエサウはセイルにおいて、かなり力ある豪族のような存在になっていくのを見ます。それに対してヤコブは、数が少ないです。ですから、しもべの姿を取るのは、いのちから救われるためだけでなく、礼を尽くしていることもあるでしょう。

⁸ するとエサウは、「私が出会ったあの一群すべては、いったい何のためのものか」と尋ねた。ヤコブは「あなた様のご好意を得るためのものです」と答えた。

そうですね、実際、エサウの怒りを宥めるためのものでした。

⁹ エサウは、「私には十分ある。弟よ、あなたのものは、あなたのものにしておきなさい」と言った。

そうです、エサウはおそらく富んでいました。その必要はないのです。

¹⁰ ヤコブは答えた。「いいえ。もしお気に召すなら、どうか私の手から贈り物をお受け取りください。私は兄上のお顔を見て、神の御顔を見ているようです。兄上は私を喜んでくださいましたから。¹¹ どうか、兄上のために持参した、この祝いの品をお受け取りください。神が私を恵んでくださったので、私はすべてのものを持っていますから。」ヤコブがしきりに勧めたので、エサウは受け取った。

午前礼拝でお話したように、ヤコブは、御使いとの格闘において、神の御顔を見たのです。人であり、神である方です。そして、次に見えたのがエサウの顔でした。そのエサウが、自分を抱擁して、口づけしてくださったのです。いのちを失う覚悟をしていたのに、も関わらず、です。ですから、今、主がおられることで、思いっきり満足しています。それが、「私はすべてのものを持っていますから」という言葉に表れています。

2B 別れるヤコブ 12-19

1C 解かない警戒 12-17

¹² エサウが、「さあ、旅を続けて行こう。私があなたのすぐ前を行くから」と言うと、¹³ ヤコブは彼に言った。「あなた様もご存じのように、子どもたちは弱く、乳を飲ませている羊や牛は私が世話をしています。一日でも、ひどく追い立てると、この群れはすべて死んでしまいます。¹⁴ あなた様は、しもべより先にお進みください。私は、前を行く家畜や子どもたちの歩みに合わせて、ゆっくり旅を続け、あなた様のもと、セイルへ参ります。」

エサウは、一緒にセイルに行かせようとします。ヤコブは当然ながら、自分の父の故郷、約束の

地に入りたいと願っています。ですから、ここでまた、あのヤコブに戻っています。いろいろ言い訳をして、偽って、なんとかエサウと一緒に行かないようにしているのです。

¹⁵ それで、エサウは言った。「では、私と一緒にいる者の何人かを、あなたのもとに残しておくことにしよう。」ヤコブは言った。「とんでもないことです。私はご主人様のご好意を十分に受けております。」¹⁶ エサウは、その日、セイルへ帰って行った。¹⁷ 一方、ヤコブはスコテへ移動し、そこで自分のために家を建て、家畜のためには小屋を作った。それゆえ、その場所の名はスコテと呼ばれた。

ヤコブは、そのままヤボクの渡しをヨルダン川のほうに向かい、まだ渡らないところで、家を建てました。といっても、仮の家のようなものです。「スコテ」という名には、小屋という意味があつて、そこに永住するつもりはありません。

こうやって、ヤコブはエサウと別れたのです。イサクが死んだ後に、ヤコブとエサウは共に葬りますが、他に会ったという記録は、ありません。

この後は、主がリベカに語られ、またイサクが信仰を持って語った言葉が成就するのみです。イサクの、エサウに対する言葉を読みます。「27:39-40 見よ。おまえの住む所には地の肥沃がなく、上から天の露もない。40 おまえは自分の剣によって生き、自分の弟に仕えることになる。しかし、おまえが奮い立つなら、おまえは自分の首から彼のくびきを解き捨てるだろう。」次に、イスラエルの民が会うのは、モーセがエドム人の国を通過しようとする時です。彼らは決して通過せず、むしろ、戦おうとしていました。ここで言っているとおり、「自分の剣によって生きたのです。しかし、ダビデの時に、イスラエル王国はエドムを制圧し、貢物を納めさせる、つまり兄が弟に仕えるようになりました。

2C 油断の定住 18-19

¹⁸ こうしてヤコブは、パダン・アラムからの帰途、カナンの地にあるシェケムの町に無事に着き、その町の手前で宿営した。¹⁹ そして、天幕を張った野の一画を、シェケムの父ハモルの息子たちの手から百ヶシタで買い取った。²⁰ 彼はそこに祭壇を築き、それをエル・エロヘ・イスラエルと呼んだ。

ついに、ヤコブは父の故郷、ヨルダン川を渡り、約束の地に戻りました。しかし、彼の行く先は、シェケムではなくベテルであるはずですが。そこに主が天のはしごで現れ、約束がかなえられるまで決して見捨てないと約束されたこと。そこで、ヤコブが、十分の一を献げると誓いを立てたのです。

そこに戻る前に、渡った先にあるシェケムに留まりました。そこはかつて、アブラハムが初めて、約束の地に入ってきて、祭壇を築いたところです。ですから、ヤコブはここに住むことに正統性を感じたことでしょう。しかし、それは、彼のおごりでした。彼は、まだ全うされていないのに、信仰に

よる前進の旅を途中でやめてしまったのです。

アブラハムもイサクも、自分たちの住むところを買い取ることはありませんでした。それは、後にイスラエルの子孫がここを所有することを知っていたからであり、何よりも、天において故郷が、そして都があることを知っていたからです。(ヘブル 11 章参照)しかし、ヤコブはここで買い取ってしまいました。さらに、自分の名を残しています。「エル・エロヘ・イスラエル」というのは、「イスラエルの神である神」というものです。自分に与えられた名、イスラエルの名をここに置いているのです。

これは明らかに、霊的な油断です。これまで信仰によって忍従していました。耐え忍び、神に従って来ました。そしてエサウとの出会いが、果たせました。それで、悪い意味で「ほっとして」、主を追い求めることをしなかったのです。もうこれでよい、と思ってしまったのです。

2A シェケムでの悲劇 34

1B カナンの慣わし 1-12

1C 辱めによる婚姻 1-7

¹レアがヤコブに産んだ娘ディナは、その土地の娘たちを訪ねようと出かけて行った。

覚えていますでしょうか、ヤコブは、レアによって四人の息子を初めに産みました。ルベン、シメオン、レビ、そしてユダです。そして、ラケルが嫉妬して女奴隷から子を得ました。そして今度は、レアが彼女自身の女奴隷から子を得て、それからしばらくして、再びレア自身が子を産みました。イッサカルとゼブルンです。その後で、著者モーセは女の子を産んだと書いています。「30:21 **その後、レアは女の子を産み、その子をディナと名づけた。**」彼がわざわざ、ここで書き記しているのは、ここシェケムで起こった事件を意識しているからです。

彼女は、年齢的には 14 歳から 16 歳ぐらい、中高生ぐらいだと思います。同性の女の子友だちが欲しい時期です。それで、訪ねに行こうと出かけました。ここに、土地まで買って住みついているのですから、ごく自然な行為です。しかし、次に起こることを考えれば、親は、彼女を行かせるべきではありませんでした。

²すると、その土地の族長であるヒビ人ハモルの子シェケムが彼女を見て、これを捕らえ、これと寝て辱めた。³ 彼はヤコブの娘ディナに心を奪われ、この若い娘を愛し、彼女に優しく語りかけた。⁴ シェケムは父のハモルに言った。「この娘を私の妻にしてください。」

恐るべきことが起こりました。ディナは辱めを受け、しかもその犯人は、シェケムの族長の息子、王子のような存在です。この町と同じ名のシェケムです。彼は、これを当たり前であるかのように父に告げ、そして妻にしてくださいとお願いしています。

日本にも、実は近代の直前まで、こうした習慣がありました。若い女の寝ているところに入って強姦し、無理やり嫁にするのを「夜這い」と言います。また、誘拐して、自分の家に監禁して、辱めるのが「嫁盗み」と呼びます。そして、その家に恥辱が及ばないように、娘の家は泣き寝入りして、官女をその男の家に嫁がせるのです。こうした悪しき習慣が、カナン人の間にありました。

⁵ ヤコブは、シェケムが自分の娘ディナを汚したことを聞いた。息子たちは、そのとき、家畜を連れて野にいた。それでヤコブは、彼らが帰って来るまで黙っていた。

すでに、ヤコブは父としての力、霊的な権威を失っています。覚えていますか、ダビデがそうでした。息子アムノンが、他の母から生まれた娘タマルを凌辱しました。ダビデは、心の中では怒りましたが、アムノンに対して何か処罰を与えることをしませんでした。それで、同じ母から生まれた、アブサロムが、タマルの兄がアムノンを殺したのです。

⁶ シェケムの父ハモルは、ヤコブと話し合うためにやって来た。⁷ ヤコブの息子たちは野から帰って来て、このことを聞いた。息子たちは心を痛め、激しく怒った。シェケムがヤコブの娘と寝て、イスラエルの中で恥辱となることを行ったからである。このようなことは、してはならないことである。

当然、息子たちが心を痛め、激しく怒っています。そして、著者モーセは、「このようなことは、してはならないことである」と彼自身の注釈を入れています。そうです、イスラエルの中ではあってはならない恥辱です。モーセの律法の中にも次のように定められています。「申 22:28-29 ある男が、まだ婚約していない処女の娘を見かけ、彼女を捕らえて一緒に寝ているのを見つけられた場合、娘と寝た男は娘の父に銀五十シェケルを渡さなければならない。彼女はこの男の妻となる。彼女を辱めたのであるから、彼は一生この女を離縁することはできない。」これは、法外な花嫁料を課すことによって、その罪を犯すのを思いとどまらせるためです。

しかし、シェケムの父、ハモルが堂々と、ヤコブの家にやってきています。

2C 雑婚による統合 8-12

⁸ ハモルは彼らに語りかけた。「私の息子シェケムは、心からあなたがたの娘さんを恋い慕っています。どうか娘さんを息子の嫁にしてください。⁹ 私たちは互いに姻戚関係を結びましょう。あなたがたの娘さんを私たちに下さし、私たちの娘をあなたがたが迎えてください。¹⁰ そうして私たちとともに住んでください。この土地は、あなたがたの前に広がっています。ここに住み、自由に行き来し、ここに土地を得てください。」

凌辱したシェケムに、ディナを妻に与えることを、父が堂々とお願ひしているのは大問題です。けれども、もっともつと大きな問題になることを、ハモルは提案しています。「**私たちは互いに姻戚関係を結びましょう**」であります。ここで、自分たちが一つの民になろうというのです。これが、どんなに恐ろしいことかは、アブラハムに与えられた神の約束とその契約を見れば、明らかです。アブラハムが過ちを犯しましたが、サラを自分の妹だと言って、ファラオは自分のそばめにしようと、ペリシテ人のアビメレクもそうでした。それを主が、ファラオの家、アビメレクの家に災いを下そうとして、守られたのです。

¹¹ シェケムは彼女の父や兄弟たちに言った。「皆さんのご好意を得られるのなら、おっしゃる物を何でも差し上げます。¹² どんなに高い花嫁料や贈り物であっても、私にお求めください。おっしゃるとおりに差し上げます。ですから、どうか、あの人を私の妻に下さい。」

シェケムは、有力者の息子であり、花嫁料を法外に高くしたところで、支払うことのできる財力があります。今、ここではヤコブの家は無力であります。

2B シメオンとレビの計略 13-31

ここで、ヤコブがすでに、父としての力を失っています。何も言えていません。そこで、さらに息子たちが悪事を働きます。

1C 割礼の条件 13-17

¹³ ヤコブの息子たちは、シェケムが自分たちの妹ディナを汚したので、シェケムとその父ハモルをだまそうとして、¹⁴ 答えた。「割礼を受けていない者に私たちの妹をやるような、そんなことは、私たちにはできません。それは、私たちにとって恥辱となることですから。¹⁵ ただし、次の条件でなら同意しましょう。もし、あなたがたの男たちがみな、割礼を受けて、私たちと同じようになるなら、¹⁶ 私たちの娘たちをあなたがたに嫁がせ、あなたがたの娘たちを妻に迎えましょう。そうして私たちはともに住み、一つの民となりましょう。¹⁷ しかし、もし、あなたがたが私たちの言うことを聞かず、割礼を受けなければ、私たちは娘を連れてここを去ります。」

割礼を受けることについて、実は、アブラハムに神が命じられたのは、真新しいことではありませんでした。他の民でも割礼の習慣のあるところは、当時ありました。ですから、その習慣がないカナン人にとって、これは真新しいことではなく、ちょっと取り入れてもよい習慣です。一つの民になるのであれば、ちょっとこういったところで譲歩するのはたやすいことです。そこを狙って、息子たち、具体的にはシメオンとレビですが、彼らが計略を企みました。

2C 隠された悪意 18-24

¹⁸ 彼らの言ったことは、ハモルと、ハモルの子シェケムの心になかった。¹⁹ この若者は、ためらわ

ずにそれを実行した。彼はヤコブの娘を愛していたからである。彼は父の家のだれよりも敬われていた。

シェケムの町で、最も影響力のある人物になっていました。ですから、町の男全員に呼びかけ、応じてくれるのは難しいことはありません。

²⁰ ハモルとその子シェケムは自分たちの町の門に行き、町の人々に告げた。²¹「あの人たちは私たちに友好的だ。あの人たちをこの地に住ませ、この地を自由に行き来させよう。この地は、彼らが来ても十分広いのだから。私たちは彼らの娘たちを妻に迎え、私たちの娘たちを彼らに嫁がせよう。

ヤコブはシェケムの目の前にある土地を買い取っています。彼らが城壁のあるシェケムの町を自由に行き来させようと言っています。

²² 次の条件でなら、あの人たちは、私たちとともに住んで一つの民となることに同意すると言うのだ。それは、彼らが割礼を受けているように、私たちのすべての男たちが割礼を受けることだ。²³ そうすれば、彼らの群れや財産、それにすべての彼らの家畜も、私たちのものになるではないか。さあ、彼らに同意しよう。そうすれば、彼らは私たちとともに住むことになる。」

シェケムの言葉に、彼の政治的な思惑が見えています。つまり、ヤコブの家の家畜はかなり多いということです。主が祝福してくださっているからです。それらが、自分たちのものになるではないか？ということです。一つの民になると言っているのは、ヤコブの家の物を自分たちのものにできるという思惑です。

²⁴ その町の門に出入りする者はみな、ハモルとその子シェケムの言うことを聞き入れ、その町の門に出入りする男たちはみな割礼を受けた。

門を出入りするということは、門というのが行政的手続きをするところなので、正式にシェケムの住民であるという意味合いがあります。公式に、シェケムの住民である男が割礼を受けました。

3C 虐殺と略奪 25-31

そして、シメオンとレビは計略を実行します。

²⁵ 三日目になって、彼らの傷が痛んでいるとき、ヤコブの二人の息子、ディナの兄シメオンとレビが、それぞれ剣を取って難なくその町を襲い、すべての男たちを殺した。

割礼は、三日目が最も痛みが強くなるようです。その時に難なく男たちを虐殺しました。

²⁶ 彼らはハモルとその子シェケムを剣の刃で殺し、シェケムの家からディナを連れ出した。

ディナはハモルとシェケムの家にいましたから、この二人を殺して、妹を連れ出しました。

²⁷ ヤコブの息子たちは、刺し殺された者のところに来て、その町を略奪した。自分たちの妹が汚されたからである。²⁸ 彼らは、その人たちの羊や牛やろば、それに町にあるもの、野にあるものを奪い、²⁹ その人たちの全財産、幼子、妻たち、家にあるすべてのものを捕虜にしたり略奪したりした。

虐殺ただけではありません、略奪行為も働いています。凌辱して、公然と彼女を妻にして、それから雑婚しようというのは、大問題です。しかし、同じように、虐殺と略奪も大問題です。

³⁰ それで、ヤコブはシメオンとレビに言った。「あなたがたは私に困ったことをして、私をこの地の住民カナン人とペリジ人に憎まれるようにしてしまった。私は数では劣っている。彼らが一緒に集まって私を攻め、私を打つなら、私も家の者も根絶やしにされてしまうだろう。」³¹ 彼らは言った。「私たちの妹が遊女のように扱われてもよいのですか。」

シメオンとレビは、全然、悪びれることはありません。後に、ヤコブは、晩年、死ぬ前に、十二人の息子を一人一人祝福し、預言します。シメオンとレビには、このように預言しました。「49:5-7 シメオンとレビとは兄弟、彼らの剣は暴虐の武器。6 わがたましいよ、彼らの密議に加わるな。わが栄光よ、彼らの集いに連なるな。彼らは怒りに任せて人を殺し、思いのままに牛の足の筋を切った。7 のろわれよ、彼らの激しい怒り、彼らの凄まじい憤りは。私はヤコブの中で彼らを引き裂き、イスラエルの中に散らそう。」

いかに、義憤を抱いても、怒りに任せた虐殺と強奪は、断じて退けるものであることを、ヤコブはここで宣言しました。彼が霊的権威をここでは取り戻しています。ちなみに、シメオンは相続地は与えられず、ユダの相続地に点在することになります。レビは、祭司と祭司を補佐する、幕屋や神殿の奉仕につくので、相続地は与えられず、町々に点々として住みます。

話を戻すと、この時はヤコブは、二人のしたことに対して、「私も家の者も根絶やしにされてしまうだろう」とししか言えませんでした。恥辱に対して、何も対処することができなかったからです。

こうやってシェケムで起こったことが大惨事でした。一人一人の行動について、ここでとやかく言えるかもしれません。しかし、もっともっと前提になる問題があったのです。それが 34 章で、主ご自身が語られます。